# 十二指腸液逆流によるラットの胃癌発生


| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2017-10-06<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 長谷川, 啓<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/15067 |

| | |
|---|---|
| 学位授与番号 | 医博乙第1181号 |
| 学位授与年月日 | 平成4年5月6日 |
| 氏　　名 | 長谷川　　啓 |
| 学位論文題目 | 十二指腸液逆流によるラットの胃癌発生 |
| 論文審査委員 | 主 査　教 授　宮 崎 逸 夫 |
| | 副 査　教 授　磨 伊 正 義 |
| | 教 授　渡 邊 洋 宇 |

## 内容の要旨および審査の結果の要旨

胃癌発生における十二指腸液胃逆流の意義を解明する目的でラットに，十二指腸液が幽門輪から逆蠕動性に幽門前底部に逆流する手術群（ADGR群），胃底腺領域大彎の吻合口より順蠕動性に胃体部に逆流する手術群（IDGR群），対照の単開腹手術群（SO群）の3群を作成した。発癌剤の投与をいっさい行わず，50週後に屠殺し腺胃を病理組織学的に検討した。得られた結果は以下のごとく要約される。

1．腫瘍発生率は，ADGR群では71%（12／15），IDGR群では54%（7／13），SO群　0%（0／20）であった。

癌発生率は，ADGR群では41%（7／17），IDGR群では44%（5／9），SO群　0%（0／20）であった。

腺腫発生率は，ADGR群では52%（9／17），IDGR群では67%（6／9），SO群　0%（0／20）であった。

腫瘍，癌及び腺腫の発生率はADGR群及びIDGR群いずれもSO群に比べ有意に高率（P＜0.01）であったが，ADGR群とIDGR群間では，有意差を認めなかった。

2．発生した腫瘍は，ADGR群ではすべて幽門前底部に，IDGR群ではすべて胃空腸吻合部にみられた。

3．胃液のpHについてADGR群では3.22±1.3，IDGR群では3.20±1.0，SO群では2.33±0.2であった。

ADGR群とIDGR群は，SO群よりpHが高い傾向があった（P＜0.10）。

また総胆汁酸濃度は，ADGRで群は3064±2160（Mean±SD．以下同様）μMOL／1，IDGR群では，9233±6247μMOL／1，それに対しSO群では，83±78μMOL／1で，ADGR群およびIDGR群は有意に高値であった（P＜0.01）。

以上より，十二指腸液胃内逆流は，それ自体に発癌作用があり，逆流した十二指腸液が最も高濃度に接触する胃粘膜に発癌することが示された。

以上より本研究は，胃癌発生の機序のひとつを実験的に解明したものであり，腫瘍学に寄与する価値ある労作であると認められた。